

顧客中心の会員組織

「だんだん倶楽部」運営開始

会報発行し需要吸い上げ

浜村建設

総合建設業の(株)浜村建設(出雲市大津町、浜村久治社長、☎0853・21・1673)は、需要の吸い上げやアフターフォロー充実につながることを目的に、顧客を中心とした会員組織「だんだん倶楽部」の運営をこのほど始めた。「だんだん倶楽部会報」を会員に月一度、無料で配布して情報発信にも役立てている。

同倶楽部は、同社が建物建設を手掛けた事業者や個人客が原則的に自動入会するかたちとし、それらの客からの紹介でも入会を受け付けている。入会金や年会費などは徴収していない。現在、千人以上の会員があり、マーケティング

調査などの際には協力を依頼している。

会報の発行は、「顧客との距離感を縮める」(同社マーケティング事業部)ことを目的に考案した。A3判でカラー一枚刷り、裏表で計十本程度の記事を掲載している。新築やリフォームを手掛けた個人客、事業所が登場するコーナーを中心に、施工例や自社の従業員の紹介も盛り込んでいる。

施工例の紹介は「心の中で眠っている潜在的な需要を掘り起こす」(同部)の狙い。従業員紹介は会社に親しみを感じてもらおうため、私生活などでの「失敗談」や趣味を中心に掲



これまで発行した「だんだん倶楽部会報」を手にする浜村一彦部長(出雲市大津町、浜村建設)

載している。会報を情報発信ツールとして、口コミの輪が広がることへの期待もある。

編集はマーケティング事業部の浜村一彦部長が担当。配布先は家庭や事業所単位とし、毎月三百部を発行している。アンケート調査などで寄せられた声に基づき、文字を拡大したり、写真

を多くしたりと改良を重ねた。浜村部長は「お客さんとの距離が近くなれば、需要の吸い上げにつながる。欲求をぶつけてもらい、それに応えることでお客さんの生涯利益につなげていきたい」と話している。

〈西 憲和〉

4月1日松江事業所を開設

進研ゼミ会員獲得し情報提供

ベネッセコーポレーション

教育や語学事業を中心に全国展開する(株)ベネッセコーポレーション(岡山市)は、松江事業所(☎0852・25・7101)を同市朝日町のスカイビル四階に四月一日開設、同月中旬から営業を開始する。山陰両県では初の事業拠点。

同事業所では、入試制度など地域の教育事情を把握し、事業展開に役立てるほか、通信教育講座「進研ゼミ」の会員獲得を図り、会員への進路説明会の開催など教育情報の提供を行う。

ベネッセでは、現在全国に九事業所を設置しているが、二〇〇七年度末までに、全国四十七都道府県に事業所を開設する計画で、松

江は、中国地方では岡山に次いで二番目の開設。

当面は、松江事業所が山陰両県をカバーするが、二年以内には鳥取市に鳥取事業所を開設する予定。延原範昭

松江事業所長は「開設をきっかけにして、地域密着した教育情報を提供していきたい」と話している。

〈田中達朗〉